

## 「私は地域のみまもり隊」

岩沼市立岩沼中学校2年

郷内 真海さん

「ピンポン、こんにちは。」

私は先日、母と一緒に地区の配布物を配るお手伝いをしました。私は一軒一軒歩きながら回っているうちに、ある事に気づきました。それは、ほとんどの家が高齢の人の世帯だったということです。私の住んでいる地区は、市街化調整区域といい、自由に新しい家を建てることができません。周りは田んぼだらけで、街灯も少ない場所です。一昔前は、みんな田んぼや畑へ行って農作業をしていたので、お客さんが来ても家に上がって待っていられるようにと、鍵などかけていなかったそうです。

「私が子供の頃は、鍵をかけなくても泥棒なんか入ってこなかったんだよ。でも、今ほどこの家でも鍵をかけなければ、いつ泥棒が入ってくるかわからないからね。」

と母は言っていました。鍵をかけるのが当たり前の今の時代の私には、いつからこのような世の中になってしまったのかと思うばかりです。

我が家は、祖父母のいる七人家族で、何かあったときはすぐに声を出せば気づくことができますが、一人で暮らしている高齢者の人はいったいどうするのでしょうか。そう思い当たった時、とても不安になりました。私は、自分に何かできることはないかと考えたのです。

先日、私が学校へ行くとき、道端にお花を植えていたおばあさんに、「いつもきれいなお花をありがとうございます。」と声をかけました。するとおばあさんは、「あら、どこのお孫さんだい、よろしくね。」と言われて、私はうれしくなりました。そして、この地区みんなの孫になろうと思ったのです。それからは、私は散歩をするおじいさんやおばあさんに、朝から笑顔で「おはようございます。」と声をかけています。私が地域のパトロール隊のような存在になればいいと思いました。

私自身も、地域の人に声をかけることで親しくなり、守られています。以前、私が自転車を運転していて、田んぼの堀に落ちたとき、助けてくれたのは地域に暮らすおじいさんでした。

色々な所で、みんなで声をかけあえば、優しさで笑顔があふれるすてきな地域になると思います。コロナ禍で会話の少ない世の中だから、心が疲れて犯罪につながるのかもしれない。コロナが落ち着いて、母が語ったような、鍵をかけなくても良い時代に、いつかなれたら良いとも思います。それまで私は、地域の見守り活動を続けてみたいと思っています。

私の名前は真海（まりん）ですが、父が、真っすぐに海のような広い心で育ててほしいという願いを込めてつけてくれました。そんな広い心で、これからもたくさんの人に目を向け、たくさんの人に声をかけていきたいと思っています。